2025 年 8 月吉日

会員各位

日本地域経済学会事務局

# 日本地域経済学会 第 37 回 沖縄大会：全国大会案内（会報第二報）

本年の全国大会（沖縄大会）は、下記のとおり、沖縄大学 本キャンパス（那覇市字国場 555 番地）において対面開催します。沖縄開催のため飛行機やホテル等の手配の早めの必要性を考慮し、例年よりも早く会報第二報を発行します。

## ■ 第 37 回沖縄大会の概要

日程：2025 年 11 月 29 日（土）～12 月 1 日（月）

11 月 29 日（土）　理事会（新旧合同）
地域公開シンポジウム「おきなわの子どもたちと社会・企業の取り組み」
総会、懇親会**（事前申し込み）**

11 月 30 日（日）　自由論題報告、企画セッション
宮本憲一先生の特別講演
共通論題シンポジウム「新冷戦と地域経済の持続可能性」
自由論題賞授賞式、閉会挨拶

12 月 1 日（月）　エクスカーション**（事前申し込み）**

大会開催校：沖縄大学

【大会実行委員会】

委員長：川瀬光義（京都府立大学名誉教授）

鈴木誠（愛知大学）、島袋隆志（沖縄大学）、関耕平（島根大学）、真喜屋美樹（沖縄高専）

佐無田光（金沢大学）

大会実行委員会（現地問い合わせ先）：沖縄大学経法商学部　島袋隆志

〒902-8521 沖縄県那覇市字国場 555 番地　　E-Mail: shimabuk-t@okinawa-u.ac.jp

学会事務局：駒澤大学（長山宗広・松本典子・大前智文）　E-Mail: chiikikeizai60@gmail.com

＊）大会 1 週間前の 11 月 21 日（金）18:00～Zoom オンラインにて、理事会（新旧合同）を予定してます。

## 11 月 29 日（土）

■ **理事会**　11 月 29 日（土）10：00～12：30　会場：本館 2 階大会議室

■ **地域公開シンポジウム**　11 月 29 日（土）13：00～16：30　会場：３号館 101 教室

共催：沖縄大学地域研究所（予定）

テーマ：**おきなわの子どもたちと社会・企業の取り組み**

企画趣旨：

2016 年、沖縄県では「子どもの貧困」問題が湧き起こった。子育て世代の貧困率が全国平均を大きく上回

り、深刻な社会問題となった。主な要因は、非正規雇用の多さ、低賃金、ひとり親家庭の経済的困難などである。こうした要因に対して、地域社会からは「無料塾」などの学習支援や「子ども食堂」の運営など、子どもの健全な成長を支える取り組みがなされてきた。同時に、地域企業の側からは、その親世代への安定した雇用の場の提供や職場での子育て支援制度の充実を図るための取り組み、子ども世代への直接的な支援もなされてきている。こうした事例紹介をヒントにして、おきなわの子どもたちの未来、さらに沖縄社会と経済の未来を展望し、そのための道筋を探りたい。

○ファシリテーター
：島袋隆志（沖縄大学 教授）
○報告者・パネラー
：天願　力（田場区自治会長）
：佐渡山要（株式会社琉球のタネ 代表取締役）
：福地一仁（株式会社福地組 代表取締役社長）

■ **総会**　11 月 29 日（土）16:30～17:45　会場： 3 号館 101 教室

■ **懇親会**　11 月 29 日（土）18:00～19:30　　会場：本館 1 階ホワイエ
会費 5,000 円（「事前申し込み」にある QR コードを読み取り、事前にお申し込みください。会費は当日懇親会場受付にて現金でお支払いいただきます。なお、おつりのないようご準備ください。）

**11 月 30 日（日）**

■ **自由論題報告、企画セッション**　11 月 30 日（日）9:00～12:00　　会場：本館 101・102・103 教室

| 自由論題報告　第 1 分科会<br>会場：本館 101 教室<br>テーマ：災害レジリエンスと交通・財政・金融<br>座長：菊地裕幸（愛知大学） | 自由論題報告　第 2 分科会<br>会場：本館 102 教室<br>テーマ：産業集積・産学連携とイノベーション<br>座長：小田宏信（成蹊大学） | 企画セッション<br>会場：本館 103 教室（同窓会館）<br>テーマ：環境配慮型経済の潮流とその地域経済モデル化の検討<br>ファシリテーター：池島祥文（横浜国立大学） |
|---|---|---|
| 第 1 報告<br>報告者：藤原遥（福島大学）<br>報告タイトル:福島原発事故被災自治体における産業政策の歪み | 第 1 報告<br>報告者：松本正義（名古屋外国語大学）<br>報告タイトル:産業集積における資金と情報の関係性－昭和 50 年代の尾州地域を事例として－ | 報告①：池島祥文（横浜国立大学）・久場悠矢（横浜国立大学）<br>報告タイトル:環境配慮型経済の潮流と地域的視点の導入 |
| 第 2 報告<br>報告者：中村哲也（共栄大学）・増田聡（帝京大学）・丸山敦史（千葉大学）<br>報告タイトル:南海トラフ地震に対する長期避難・移住意思と社会経済要因 | 第 2 報告<br>報告者：冉喜林（立命館大学（院生））<br>報告タイトル:浜松地域の産学官連携の新展開－A-SAP 産学官金連携イノベーション推進事業を焦点に－ | 報告②：王テツチン（横浜国立大学）・池島祥文（横浜国立大学）<br>報告タイトル:日本におけるバイオエコノミー企業の空間分布 |
| 第 3 報告<br>報告者：小巻泰之（大阪経済大学）<br>報告タイトル：都道府県における Covid-19 への政策決定の相違について－意思決定, 首長の属性, 情報の伝え方・残し方－ | 第 3 報告<br>報告者：白川展之（新潟大学）<br>報告タイトル:中間支援組織つばめいとにみる燕･三条地域におけるグローカルな産業集積の革新－大企業下請けの保護すべき中小企業像の終焉と産学連携･コープ教育による中小企業の吸収能力の向上のメカニズム－ | 報告③：藤本晴久（島根大学）・池島祥文（横浜国立大学）<br>報告タイトル:資源循環型企業の階層的ネットワークと取引構造<br><br>報告④：大貝健二（北海学園大学）<br>報告タイトル：酒造業における地域性の追求 |

| | | |
|---|---|---|
| 第4報告<br>報告者：藤田知也（北海学園大学）<br>報告タイトル:ローカル線の前向きな廃線は可能なのか？－事例分析による観光鉄道化の検討－ | 第4報告<br>報告者：岩松義秀（京都府立大学）<br>報告タイトル:STEAM 教育の推進による地域経済の発展－産業と教育の連関によるイノベーション創発－ | 報告⑤：横田宏樹（静岡大学）<br>報告タイトル:産地家具における地域の木の利用と価値づけ |
| 第5報告<br>報告者：宋宇（帝京大学）<br>報告タイトル：LRT 開発による地域経済活性化と財政構造の実証研究－富山･宇都宮両市の比較分析－ | 第5報告<br>報告者：村本睦子（北陸先端科学技術大学院大学（院生））<br>報告タイトル：文化政策による地域価値創出の持続性の分析：TVCA モデルを用いた八戸市事例の文化政策評価フレームワーク | |
| 第6報告<br>報告者：藤本典嗣（大阪経済大学）<br>報告タイトル:地域金融における現金流通構造の空間的偏在－日銀支店別受払データによる可視化分析－ | 第6報告<br>報告者：イ・ミンジョン（韓国 忠南発展研究院）<br>報告タイトル：韓国・忠南における買物弱者の推定および地域商業の役割 | |

＊）自由論題の1つの報告の持ち時間は30分。報告は20分、質疑応答（入れ替え時間含む）は10分。

■ **宮本憲一先生（本学会顧問）の特別講演** 11月30日（日）13:00～13:45
会場：本館103教室（同窓会館）

演題：**沖縄の地域開発の歴史－軍事基地の圧力の下で**

■ **共通論題シンポジウム** 11月30日（日）14:00～17:00　　会場：本館103教室（同窓会館）

テーマ：**新冷戦と地域経済の持続可能性**

企画趣旨：

21世紀の序盤、パックス・アメリカーナの世界体制は揺らぎ、世界経済は多極化するとともに、新冷戦と呼ばれるような国際秩序の新しい段階が始まっている。災害やパンデミックに加えて、ウクライナ戦争やガザ侵攻に象徴されるような戦争の脅威が世界各地で顕在化すると同時に、各国内でも社会的な対立や分裂が深刻化しており、総じて現代社会のリスクは深化している。多極化する時代に呼応するように、アメリカのトランプ大統領は2025年の就任早々、従来の国際協調のルールを超越するような極端な自国第一主義に基づく関税政策などを打ち出し、グローバル経済の競争フィールドは急速にルールを変えつつある。

地域経済の観点から見ると、情報通信技術や交通ネットワークの進歩によって世界の距離感はますます縮まる一方で、自由貿易や出入国の制限、サプライチェーンの再構築、先端技術領域の安全保障、情報戦の展開など、従来にはない障壁や再編が新たに生じている。急速に変化する国際関係や競争環境の下で、地域社会はいかにして共同生活条件を維持していくことができるであろうか。

特に、国境を接するクロスボーダー地域にとって、新冷戦の影響は大きい。クロスボーダー地域は、国内では周辺に位置して発展に制約を抱えるが、いったん国境の縛りが弱まれば、複数の国の制度を横断的に活用することで発展を呼び込むポテンシャルを有している。しかし逆に国境を隔てた対立が深まると、諸国の政治に左右されやすく、紛争や難民などのリスクの矢面に立つ脆弱な地域でもある。在日米軍専用基地の7割を抱える沖縄では、現在、米中対立の高まりを背景に「台湾有事」の可能性を想定して、自衛隊の「南西シフト」構想の下、さらなる軍事化が進められている。日本政府による名護市辺野古地区における新基地建設の強行は、自治の根本問題を呼び起こしつつ、国と地域との長年にわたる争点として、解消されない地域のくびきとなってしまっている。大規模で華やかな観光開発が計画される一方で、いったんリスクが発現すれば、期待されていた人流を一気に失ってしまう不安定性を抱える。

このような国際政治経済の新しい状況とクロスボーダー地域の持つ潜在性と困難性を踏まえて、本年度の共通論題では、新冷戦下の地域経済のレジリエンスや持続可能性を議論したい。クロスボーダー地域は、国際社会の流動的な状況にどう対応し、リスクに備えることができるであろうか。あるいは、大国の戦略に翻弄される中でも、その影響を緩和する道筋があるだろうか。地域を超える政治経済動向による制約を抱える中で、地域経済の持続可能性をどう追求すればよいか、こうした地域経済学の諸課題について議論してみたい。

◯ファシリテーター

：川瀬光義（京都府立大学）

◯報告者

：前泊博盛（沖縄国際大学）

：関耕平（島根大学）

：小山大介（京都橘大学）

：桒田但馬（立命館大学）

◯コメンテーター

：佐無田光（金沢大学）

■ **自由論題賞の授賞式**　11 月 30 日（日）17:00～17:15　会場：本館 103 教室（同窓会館）

奨励賞選考委員会委員長　初澤敏生（福島大学）

■ **閉会挨拶**　11 月 30 日（日）17:15～17:30　会場：本館 103 教室（同窓会館）

大会実行委員会委員長　川瀬光義（京都府立大学）

## 12 月 1 日（月）

■ **エクスカーション**

テーマ：**沖縄本島北部で進む大型観光開発と周辺地域の巡検**

新型コロナウイルス感染症が拡大する前の 2018 年度、沖縄観光は初めて入域観光客数が 1,000 万人を超え、観光収入は 7,341 億円と過去最高の実績を記録しました。コロナ後は、観光資源に恵まれ、アジア地域へのアクセスの良さという利点から、沖縄本島北部で大型観光施設の建築計画が相次いでいます。

今年 7 月にオープンしたテーマパーク・ジャングリア（総工費 700 億円）はその一例で、近隣の自治体では、シンガポール資本による水上ヴィラ式のリゾート開発計画（投資額 200 億円）や島全体を農業振興地域から除外しアイランド型ラグジュアリーリゾート開発する計画などがあります。

北部地域では、ジャングリアのオープンに伴い北部市町村会が交通対策として主要道路の延伸や拡張を政府に求めるなど周辺地域への影響が懸念されている中、名護市内では不動産価格が高騰したり、名桜大学入学を控えた学生の住宅不足が生じたりという事態が起きています。

他方、今回訪問予定の呉我区・中山区は、開発前からジャングリア側に積極的に説明会の開催を申し入れるなどして地域の暮らしと環境を守る努力を続けています。

本企画では、風光明媚な北部地域で進む大型リゾート開発の現場と予定地を巡ります。

○スケジュール：(すべてバス移動)

出発）集合場所：沖縄県庁 県民広場前（県庁前にある観光バス乗降停留所)、時間：9:00 発

訪問先）名護市呉我区公民館（ジャングリア東側に接する地区)、名護市中山区公民館（ジャングリア西側に接する地区)、名護市役所（地域経済部：予定)、本部町役場（企業商工観光課：予定)、ジャングリア周辺、瀬底島を予定しています。

なお、旅程は調整中のため一部変更になることもあります。

昼食場所）オリオンホテル　モトブリゾート＆スパ（ビュッフェのみ、アラカルトメニューなし、料金は3,500 円、現地で各自支払い）

※昼食場所および昼食代は、旅程の一部変更に伴い変更になる場合もあります。

最終到着地）那覇空港（那覇市内で下車希望の場合は、可能な範囲で対応）

最終地到着時刻）18:00 頃

○エクスカーションおよび懇親会の申し込み

11 月から 12 月にかけての沖縄は修学旅行シーズンで、北部地域は観光の繁忙期になります。そのため、早目のバスの手配や昼食場所（団体対応可）の予約が必要です。エクスカーションのお申込みはお早目にお願いいたします。今回のエクスカーションは 25 名定員としております。なお、バスチャーター費用は、学会が負担しますが、昼食代は既述の通り、各自での負担となります。また、大型バスを手配しておりますので、スーツケースの持ち込みは可能です。

**【事前申し込み】**

申し込みは、下記、QR コードか URL からお願い致します。

懇親会の事前申し込みについても同様、下記、QR コードか URL からお願い致します。

申し込み締め切りは、いずれも、**10 月 24 日（金）**とします。

https://forms.gle/bbbN2mEKXmGTJ4ht9

ご不明な点は、大会実行委員会・開催校責任者：島袋隆志（shimabuk-t@okinawa-u.ac.jp）までお問い合わせください。

■　**大会会場・交通アクセス、会場案内**

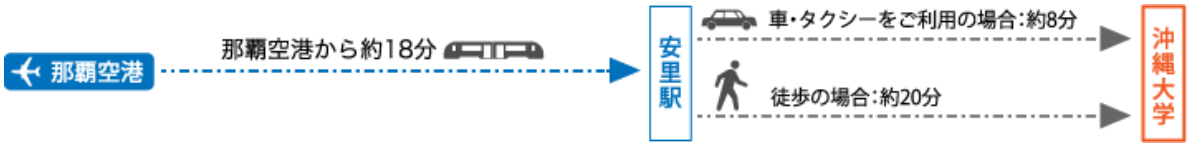
【大会会場】　沖縄大学 本キャンパス

〒902-8521 沖縄県那覇市字国場 555 番地

【交通アクセス】https://www.okinawa-u.ac.jp/campuslife/facility/access/　を参照

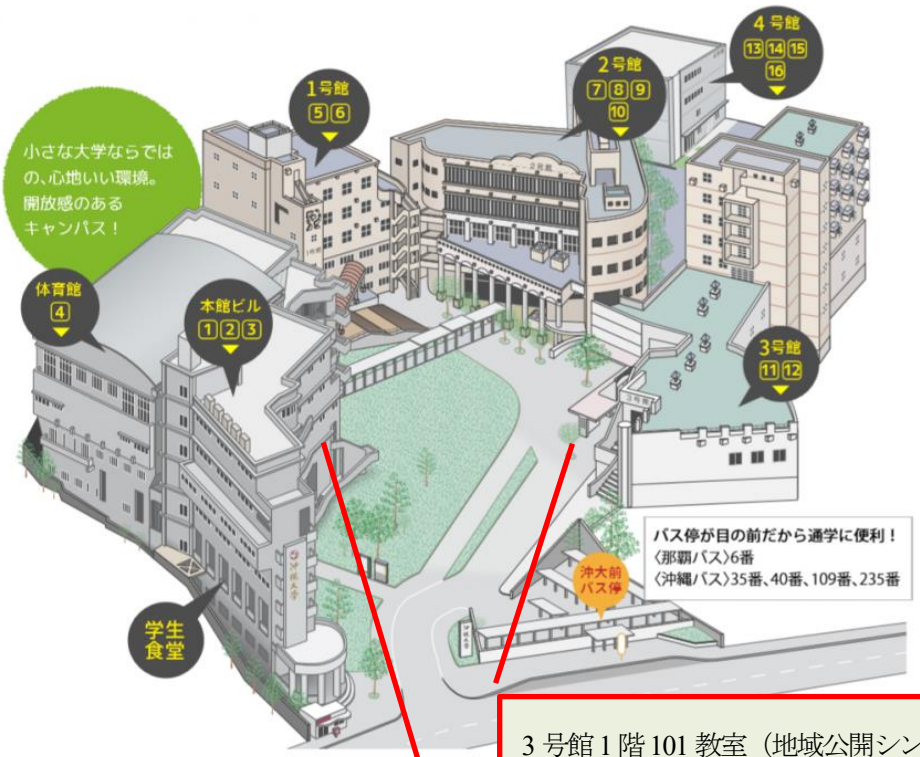
バスをご利用の場合

モノレールをご利用の場合



【会場案内】沖縄大学 本キャンパス　本館 103 教室（同窓会館）

https://www.okinawa-u.ac.jp/campuslife/facility/　を参照




3 号館 1 階 101 教室（地域公開シンポジウム）

【懇親会会場】

会場名　本館 1 階ホワイエ（同窓会館前）

本館 1 階 101/102/103 教室・ホワイエ

地図

県庁前から沖縄大学まで、車で約 13 分（約 3.4 km） Google map より